

平成 22 年度 教師海外研修（研修国：ウガンダ共和国）実践報告書

1. タイトル：What is Important to Our Lives?（私たちにとって、大切なものは何？）

～ウガンダ人？コンゴ人？アメリカ人？日本人？私？

世界の人々を身近に感じるために～

2. 氏名：栄 秀樹

3. 学校名（担当教科）：富山県立富山西高等学校（英語）

4. 実践教科（時間数）：Oral Communication I（7時間）

5. 対象生徒・学年（人数）：1 学年 40 人クラス×2

6. カリキュラム

(1) 実践の目的

- ・ウガンダ共和国の人やモノを通して、日本との「共通点」「相違点」を探る。
- ・様々な国の人の価値観を知り、自らの価値観と比較し、世界に暮らす人々を身近に感じる。
- ・グループ学習や発表を通して、自己発見や他者理解を考える。
- ・英語学習を通して基本表現・基本文法を身につける。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：ウガンダ共和国ってどんなところ？① ねらい：ウガンダ共和国をクイズ形式を通して紹介する。	①3～4 人のグループで、ウガンダの様子を写した写真や物を見せ、合計 10 問の“ What’s this? ” Quiz を行う。 ②答え合わせをしながら、ウガンダ共和国の習慣・文化の解説をする。	・写真（学校のチャイム、トイレ、食べ物など） ・ウガンダグッズ（装飾品・日用品・クラフトなど） ・ワークシート
2 限目 テーマ：ウガンダ共和国ってどんなところ？② ねらい：日本との共通点・相違点を探る。写真からウガンダの人々の生活様式を知る。	①Primary 3 の教科書（現地にて購入したもの）に載っている小学校の様子を描いたページをワークシートにして配布し、指定した構文を使い、共通点や相違点を見つける。 ②ウガンダ国内で撮影した写真について、簡単な英作をする。 ③黒板を使い、数名に板書を促し、発表する。	・Primary3 の教科書 ・撮影した写真 ・ワークシート
3 限目 テーマ：ウガンダ共和国ってどんなところ？③ ねらい：日本との共通点・相違点を見つける。小学生が学んでいることを知る。	①授業風景を撮影した動画を流し、日本との英語授業の共通点・相違点を見つける。 ②その授業で板書されていた英語の詞を読んでもみる。感想をシェアする。 ③ウガンダ教育省作成の英文で書かれた公式算数テストをグループで解いてみる。 ④解答・解説を行う。	・英語の授業風景の動画 ・公式算数テスト ・ワークシート

<p>4 限目 テーマ：What is Important to Our Lives? (人の価値観 I) ねらい：ウガンダ人は何を大切に思い、日々暮らしているのかを考える。自分の価値観を比較し、共通点・相違点を探す。</p>	<p>①テーマに関するインタビュー動画を視聴する。 ②ダイヤモンドランキング表で大切なものに順位をつける。 ③グループ内発表 ④全体発表 ⑤ナチレベ小学校の子供達のダイヤモンドランキング表（約 40 枚）を見て、ウガンダの子供達の価値観を考察する。 ⑥意見をシェアする。</p>	<p>・ワークシート ・インタビュー動画 ・ウガンダの子供達のダイヤモンドランキング</p>
<p>5 限目 テーマ：What is Important to Our Lives? (人の価値観 II) ねらい：コンゴ共和国についての事前学習</p>	<p>①コンゴ民主共和国とはどのような国なのか衣食住をテーマに想像する。 ②コンゴ民主共和国の数枚の写真を見て、どのような国か想像する。 ③意見をシェアする。</p>	<p>・ワークシート</p>
<p>6 限目 テーマ：What is Important to Our Lives? (人の価値観 III) ねらい：コンゴ共和国出身の方を招き、その国について知る。</p>	<p>①コンゴ民主共和国出身のワンジオさんの紹介 ②コンゴ民主共和国についての説明 ③質疑・応答 ④リンガラ語会話 ⑤ペア練習 ⑥数名に前へ出て、全体の前で発表</p>	<p>・パワーポイント ・ワークシート</p>
<p>7 時限目 テーマ：What is Important to Our Lives? (人の価値観 IV) ねらい：コンゴ共和国出身の国際交流員を招き、その人の価値観を知り、比較する。他国の価値観を知り、比較する。</p>	<p>What's is important to our lives?について、各国のダイヤモンドランキングの発表 1. カナダ共和国（本校 ALT） 2. ウガンダの子供達 3. アメリカ人（姉妹校生徒） 4. 本校生徒 5. コンゴ人（ワンジオさん） ③共通点と相違点を考えて、用紙に記入 ④グループ内発表 ⑤全体でシェア</p>	<p>・ダイヤモンドランキング表 ・ウガンダの子供達のダイヤモンドランキング表 ・アメリカ人（姉妹校の生徒）のダイヤモンドランキング表 ・ワークシート</p>

(3) 本時の学習（7 / 7 時間目）

テーマ：What is Important to Our Lives?（私たちにとって、大切なものは何？）
 ～ウガンダ人？コンゴ人？アメリカ人？日本人？私？
 世界の人々を身近に感じるために～

1. ねらい：上記のテーマについて、世界各国に暮らす人々の価値観をダイヤモンドランキング表を使って比較し、自分との共通点や相違点を考える。国は違うが、自らと同じ考えをもっていたり、異なる考えをもっていたりすることを知る。その中でお互いを敬う気持ちや尊敬の念を抱かせる。
2. 対象：1年普通科（39名）
3. 時間：12月16日（木）1限・2限（50分×2）
4. 展開：（総時数7時間扱いの本時は7時間目）

	学習活動	資料・準備物
導入	以前作成したダイヤモンドランキング表を見直す	ダイヤモンドランキング表
展開	What is important to our lives?について、世界各国のダイヤモンドランキングの発表 1. カナダ人（本校 ALT） 2. ウガンダの子供達 3. アメリカ人 4. 本校生徒（3名） 5. コンゴ人（フレデリック・ワンジオさん） 共通点と相違点を考え、用紙に記入	・黒板用に大きく拡大したダイヤモンドランキング表 ・ワークシート ・ウガンダの子供達やアメリカの高校生のダイヤモンドランキング表 ・OHP、スクリーン等
まとめ	グループ内発表 全体でシェア まとめ	・感想用紙

7. 授業の詳細

第1時限 ウガンダ共和国ってどんなところ？① ～”What is this?”Quiz～

ねらい：私が見てきた、感じてきたウガンダ共和国についてクイズ形式で紹介する。

方法：①4人のグループを10組作る。

②写真や現地で購入した物品10点を一点ずつ各グループに提示し、話し合い、ワークシートに英語で答えを書く。制限時間を1分とし、その後、写真や物品を隣のグループに渡す。

③答え合わせの際に、習慣や文化について、土産話等を付け加えて、解説を行う。

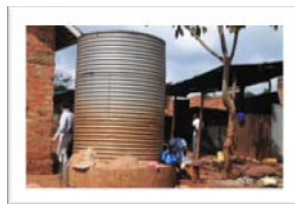
提示した写真



chime



cooking stove



water tank



matooke

【所感】

生徒の興味を引きそうな写真や現地で購入したモノを 10 点厳選し、各グループで一体何なのかを考えさせた。4 人一組の班であったので、比較的全員が発言し、笑いあいの賑やかなグループワークが展開できた。解答の際には、異文化を感じるような感嘆の声が多く、多くの質問も飛び交った。私としては、写真一枚一枚やモノの背景に色々と土産話があり、語り尽くせずに授業を終えてしまったのが残念である。

マトケ (matooke) の名称は、中間考査にも出題し、多くの生徒が答えることができていたのは喜びである。

第 2 時限 ウガンダ共和国ってどんなところ？②

ねらい：現地で購入した小学生用教科書を使い、日本との共通点・相違点を探る。

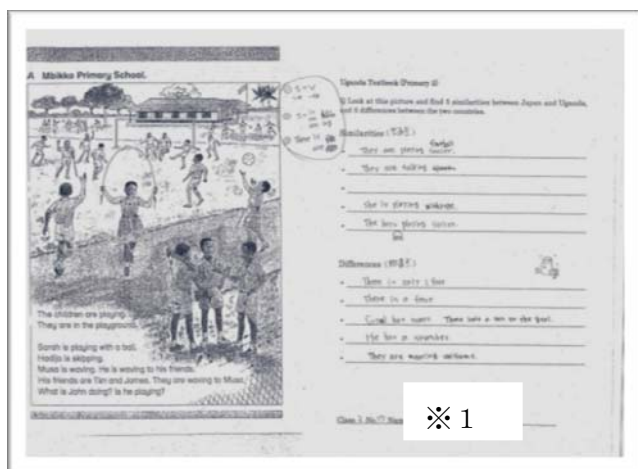
写真からウガンダの人々の生活様式を知る。

方法：① Primary 3 の教科書（現地にて購入したもの）に載っている小学校の様子を描いたイラストをワークシート（※1）にして配布し、現在形、現在進行形、There is/are～構文を使って、Similarities（共通点）、Differences（相違点）を各 5 文作る。

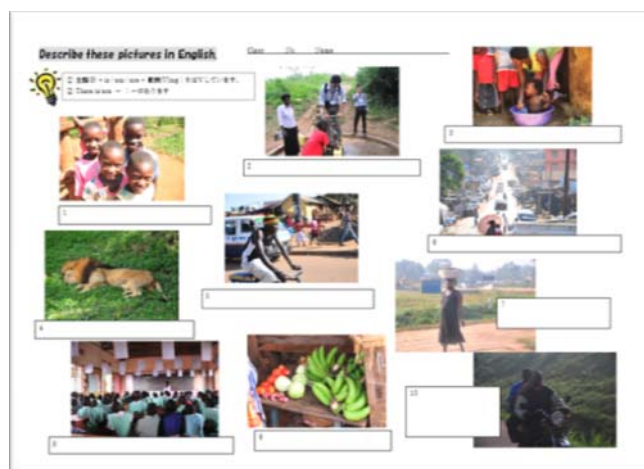
② 数名に英文を板書してもらい、全体でシェアする。

③ ウガンダ国内で撮影した写真をワークシート（※2）にし、上記の構文を使い、簡単な英作をする。

④ 数名に英文を板書してもらい、全体でシェアする。



※1



※2

【所感】

ウガンダ滞在中に、1年生から5年生までの英語の教科書を購入した。低学年の教科書には、比較的身の回りの身近な話題が取り上げられており、彼らの暮らしぶりを垣間見るにはもってこいの教材だと感じた。現地の小学校の様子を描いたイラストを用いて、日本と比較をさせたが、子供達の髪型であったり、服装であったり、サッカーゴールにネットがないところであったり、学校の建物の造りであったりと生徒達は細かな所にも気づいてくれて嬉しかった。

撮影してきた色々な写真を見てもらおう機会をつくりたいと※2のようなワークシートを作成した。撮影した写真一枚一枚には驚くほど多くの情報が隠されており、生徒達はそれぞれに共感し、どんな写真か知りたい欲求が伝わってきた。生徒は英文を作成するのに苦労していた面もあるが、「表現したい!」と思わせるほど写真が与えるインパクトは大きかったと思う。今回のワークシートはカラーコピーを用いたので、よりその印象が伝わったのだと感じている。

3 時限 ウガンダ共和国ってどんなところ? ③

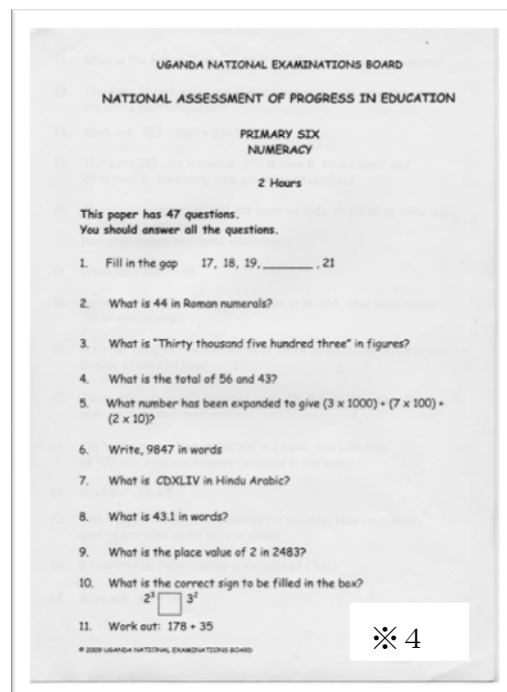
ねらい：ナチレベ小学校の英語の授業を動画を見て、日本との共通点・相違点を見つける。その授業で実際に使われていた教材を使い、ウガンダの子供達がどんなことを学校で学び、どんな考えを持っているのかを知る。

方法：①授業風景を撮影した動画を流し、日本の英語授業との共通点・相違点を見つける。

②その授業で板書されていた英語の詩(※3)を読み、感想をシェアする。

③ウガンダ教育省作成の英文で書かれた公式算数テスト(※4)をグループで解いてみる。

④算数テストの解答・解説を行う。



【英語の詩を読んだ生徒の感想より】

- ✓ 平和なひとときは、休み時間で、この点は、私たちと共通だと思った。
- ✓ 国が違い、言葉が違って同じような思いの人がいると思えて、嬉しくなるような詩でした。

- ✓ この詩を読んで、私はなんてわがままな人間なんだろうと思いました。きれいな靴を履いて、雨が降ろうが、電車で通学し、家に帰ってもダラダラと寝転がって、夕食も母親が作ってくれるし、何もかも適当に過ごしている私は、何てずるいのだろうと思いました。
- ✓ 勉強・家事の繰り返しの日々でも、現実には負けることなく逆に勉強できることや食事があることに感謝していてウガンダの子供達はすごいと思いました。
- ✓ 今の生活を当たり前と思わないで、日々を過ごしたい。今私たちができることを見つけて、食べ物はできるだけ残さないようにするとか、毎日の家事も少しずつできるようになるといいと思いました。

【所感】

前回のフォトランゲージ風アクティビティーに続き、今回は現地で撮影してきた動画を見せた。単なる語りよりも写真、写真よりも動画の方が与えるインパクトは大きい。ウガンダでは、小学校から英語の授業が始まり、日本の英語教育でも昨今叫ばれている英語を英語で教える授業が展開されていた。今回は、その授業で子供達が学んでいた「英語の詩」をそのまま授業に持ち込んでみた。生徒の感想にあるように、ウガンダの子供達も日々思うことは私たちと似通っていると感じてくれたことは嬉しい。それに加え、自分の生活態度を見直し改善したいと思う生徒がいたり、ウガンダの子供達を尊敬するコメントを書いた生徒がいたりしたことは、まさに私が望んでいた生徒達の「気づき」であった。

第4時限 What is Important to Our Lives? (人の価値観 I)

ねらい：ウガンダ人は何を大切に思い、日々暮らしているのかを考える。自分の価値観と比較し、共通点・相違点を探す。

方法；①ウガンダで撮影してきたテーマに関するインタビュー動画を視聴する。

- ②ワークシートを使い、自分が大切にしているものをできるだけ多く英語と日本語で書く。
- ③その中から9つ選び、ダイヤモンドランキング表（※5）に従って並び替える。
- ④ワークシートに従い、スピーチ原稿（※6）を作成する。
- ⑤グループ内で、発表する。
- ⑥全体で発表する。

⑦ナチレバ小学校の子供達が作った同じテーマのダイヤモンドランキング表（※7）を一人一枚配布し、また隣の友達と見せ合いながら、ウガンダの子供達の価値観を考察する。

- ⑧意見をシェアする。

Q What is important to you in your life?

※5

Hello, everyone. My name is _____

What is important to you in your life?

The most important thing in my life is _____

Because _____

The 2nd most important things are _____ and _____

Because _____

The _____ most important things are _____

Because _____

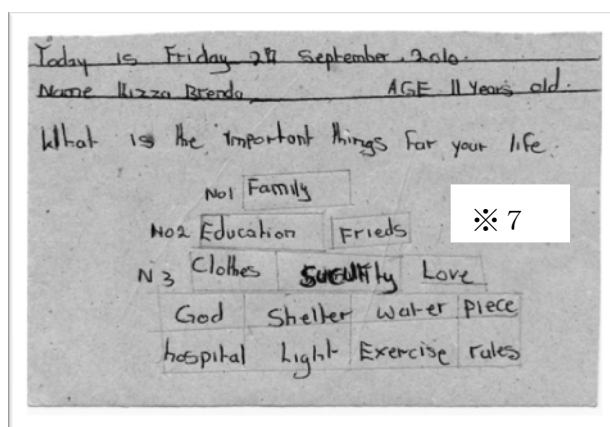
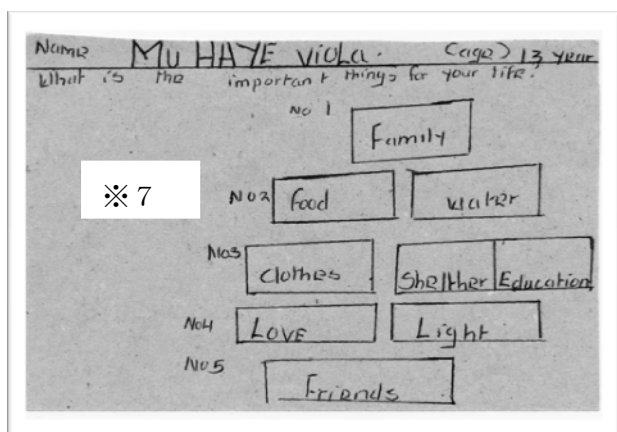
_____ is more important than _____

Because _____

What do you think of my idea? How about you?

Thank you for listening.

※6



【所感】

現地では、何を大切に思っているのか、数名のウガンダ人にインタビューしてきた。その動画を見せることで、今回のメインテーマである「What is important to you in your life?」の導入にした。画面いっぱいには彼らの顔が写り、一生懸命に考えながら質問に答えているウガンダ人の印象は良かったようだ。そして、「God」（神）や「Job」（仕事）「Hospital」（病院）などの予想もしなかった答えに生徒達は驚いていた。

※7の同上のテーマで書かれたダイヤモンドランキング表は、現地で訪れたナチレベ小学校で青年海外協力隊員として赴任している袖山隊員から、帰国後にメールで連絡を取りながら、送ってもらったものだ。実際に使っているノートを切り取って書いてくれたそうだ。単なるコピーではなく、一枚、一枚の紙の質感を感じられる、ウガンダの子供達の生の声が伝わってくる教材であった。

【ウガンダの子供達のダイヤモンドランキングを見ての感想より】

- ✓ みんな「God」と書いていて驚いた。電気用品がなかったのは、ウガンダは発展途上だからなのかと思った。
- ✓ 「平和」と書いている人が多く、日本人が書かないのは、平和ボケしているからなのかと思った。
- ✓ 「家族」「愛」「友達」など、自分と同じところがあって、親近感がわいた。
- ✓ 私は、漫画や音楽など娯楽を中心に大切だと書きましたが、ウガンダの子供達は生きるために切実に必要なものを書いているのが多かった。「神」なんて思いもしない答えでした。他にも「安全」という答えがありましたが、安全な国で暮らしている私には、ピンとこないものです。
- ✓ 私も「食べ物」や「お金」や「友達」などが大切です。一緒ですね！
- ✓ 私は、自分中心に書きましたが、ウガンダの子は、「平和」や「教育」、「神様」など自分以外のこともしっかりと考えていて、素晴らしいと思いました。
- ✓ 「家族」「友達」「愛情」というお金では買えないものを大切にしていると思う。日本人もそんな考え方ができるようになればいいと思う。
- ✓ 日本は、ものが溢れているから「お金」を大事にしている。「食べ物」や「健康」は当たり前のことになってしまっているが、本当は一番なくなると困るものなんだなと気づいた。

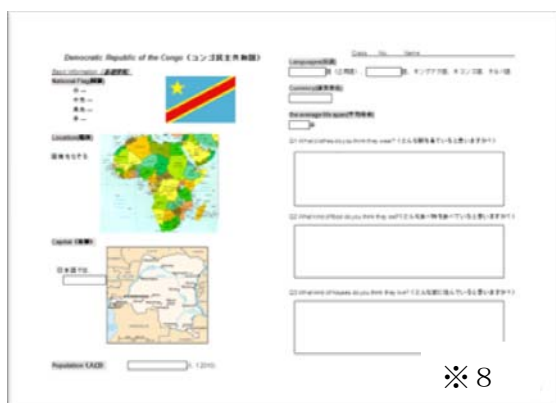
第5時限 What is Important to Our Lives? (人の価値観Ⅱ)

ねらい：コンゴ民主共和国についての事前学習

方法：①ワークシート（※8）を使い、コンゴ民主共和国の基本情報を知り、またどのような国なのか衣食住をテーマに想像する。

②次回、パワーポイントで説明のある数枚の写真について、コンゴ民主共和国がどのような国か想像する。（※9）

③意見をシェアする。



第6時限 What is Important to Our Lives? (人の価値観Ⅲ)

ねらい：コンゴ共和国出身の方を招き、その国について知る。

方法：（事前に）とやま国際センターの国際理解出前講座 (<http://www.tic-toyama.or.jp/>) を利用して、コンゴ民主共和国出身のフレデリック・ワンジオさんを紹介して頂いた。一ヶ月程前に申し込み、すぐにアフリカ出身の方という要望通りの方を紹介してもらった。講座日の一週間前には、当日の授業の流れの確認などを行うための打ち合わせを行った。

- ①コンゴ民主共和国出身のワンジオさんの紹介
- ②コンゴ民主共和国についての説明
- ③質疑・応答
- ④リンガラ語会話（※10）
- ⑤ペア練習
- ⑥前へ出て、全体の前で練習した会話の発表

【所感】

その国やそこに暮らす人を知るには、現地へ訪問するのがベストだが、そんな機会もまれである。教室に異文化の世界を持ってくるには、その国の出身者をお招きして、実際にコミュニケーションをとることが良いと思う。その点で、とやま国際センターが運営する国際理解出前講座は、手続きが簡単で、過去に何度も利用させてもらったが、人選も素晴らしいと感じている。また、生徒の満足度も上々である。



※10

単にパワーポイントでの説明に終わりたくなかったので、ワンジオさんの現地語（リンガラ語）の会話の時間を設けてみた。世界には、英語やスペイン語、フランス語などのメジャーな言語だけでなく、少数派の言語も存在することも実感してもらえたのではないかと思う。

第7時限 What is Important to Our Lives? (人の価値観IV)

※上記（3）本時の学習に詳細あり。

【ワンジオさんの授業を終えての生徒の感想より】

- ワンジオさんはとても優しく、精一杯アフリカの説明をしてくださったので、アフリカについてとても理解を深められた。また4カ国語が同じ国の中であるなんて、とても驚いた。私たちももっと色々な言語が使えたらもっと世界が広がるのではないかと思った。
- コンゴでは、地域によって、言葉が違うのを初めて知った。リンガラ語っていうのも初めて知って、挨拶などを学べて良い経験になりました。食べ物も想像していたとおりでした。自分の一番好きなものは、神様というのにも驚いた。神様について話している時、とても真剣に話されていて神様を大切にしていることがよく伝わってきた。世界にはまだまだ知らない国がたくさんあると思うので、これからも色々知りたいと思った。
- 普段とは、違った授業内容だったので、とても楽しかった。コンゴの事について知ることができて良かった。日本にいない動物などについても知ることができて、驚くことがたくさんあった。4つの国のことを比較して、同じ考えや違う考えがあったりして、色々な発見があった。
- コンゴの事は英語であまり分からなかったが、写真などで見る限り、自分が思っていた以上に都会で服もしっかりとしていて、びっくりした。
- 世界は広いなと改めて感じた。私が生きている間に同じ時代に生まれた世界中の人ともっと深く関わりたいなと思った。その為には、やはり英語を話せるようにならないといけないと感じた。
- 初めて黒人の方と触れあった。コンゴの話聞いて、日本とは違う所がたくさん合った。リンガラ語会話は楽しかった。
- ワンジオさんの話を聞いて、国によって大切なものは違うということが分かった。携帯が出てくる国は日本やアメリカのような先進国で、発展途上のコンゴやウガンダは「神」と書いている人が多いということが分かった。
- 初めて、黒人の人とこんなに近くで話せたことは、貴重な機会だった。ワンジオさんは日本語も話せていて、私も早く英語を話せるようになりたい。 *Melesi mingi.*
- 日本語がぺらぺらで驚いた。それぞれの国で大切なものは少し似ているところもあるが、日本は「お金」が一番と考えている人が多い。アメリカは「アート」系、コンゴは「神」が一番にしていた。日本には、夢を見る余裕がないので、もう少し適当になっても良いのではないか。外国人と接するのは、怖いと思っていたが、とても楽しかった。
- 日本と違うところもあったが、似ている所もたくさんあった。大切なものを聞かれたときは、私たちと同じものを書いていたのは驚きだった。
- コンゴは、日本とは全く文化、言葉、気候も違っており、驚いた。リンガラ語を少し教えてもらったが、初めて聞く響きなので、不思議な気持ちになった。挨拶をする時も握手をするとい

う行為は日本人はしないと思う。色々な違いを発見することができて、とても新鮮だった。

- 言葉が違うので外国は面白いと思う。環境が違うと自分の大切なもののランキングは日本人と真逆であると思う。
- リンガラ語を学んだが、理解するのが思っていたよりも簡単だった。大切なもののランキングでは、日本人やアメリカ人はお金やケータイなどモノが多かったが、他の国で神、水、食べものが多いと感じた。
- 自己紹介の仕方が面白かった。隣の人とうまく自己紹介ができて良かった。食べ物や服が自分の予想と合っていたので嬉しかった。自分にとって一番大切なものというので「神様」と答えていて、ウガンダの子供達と考え方が似ていると思った。

【所感】

反省点としては、ワンジオさんと使用言語の確認を怠ったことである。英語での説明に集中力を切らしてしまう生徒がいたことは残念であった。また、教室ではなく、少し大きめの会議室を使用したので、マイクも準備するべきであった。教室環境の整備も重要なポイントだったと反省している。

日本人も含めて、計5カ国の同テーマのダイヤモンドランキングを比較してみた。黒板に世界地図を貼り、地図上でその国の位置を確認しながらのランキング発表だった。世界には、色々な国があるが、人の価値観は「家族」「愛」「友達」など基本的な部分で同じ考え方をもっていると感じてくれることがねらいであった。

【実践授業を終えての所感】

出国前の私のテーマは、『人・ひと・ヒト』であり、多くの現地人と触れ合いたいと考えていた。滞在中、ホテルの玄関に立つガードマンに何気なく話かけると、お互いに色々と家族や仕事のことなどで苦勞しているなど感じた。ナチレベ小学校の給食時に目の前に座った子供達の大きな夢を聞いて、心を打たれた。青年海外協力隊員の苦勞話や熱意のある活動に感服した。ウガンダの地で暮らす人々とコミュニケーションを通して、多くの感動を与えてもらった。

人に親近感がわく時は、どのような時だろうか？私の場合は、会話等を通して、その人の考え方や感じていることを知り得た時に、「私と同じか！」と感じ、何となくその人との壁が取り払われたような感覚になる。今回は他の多くの先生方が実践されているような国際協力や支援策等のテーマには一切触れなかった。その国を助けたいと思えるのは、まずその国に暮らす人を身近に感じた後に現れてくるのではないだろうか。そんなことを思い、最初のステップとして、世界の人を身近に感じるような授業を組み立ててみた。英語の教科書では、様々な話題が取り上げられ、時に国際協力や異文化理解などが掲載されるときがある。その際に少し時間をつくり、支援策などの次のステップに移行してみたいと思っている。

今回、国内での事前研修や事後研修において、開発教育で使用される参加型の手法を色々と学ぶことができた。ロールプレイやフォトランゲージ、ダイヤモンドランキングなど、これからも授業で使えるような手法やアイデアが多く、大変参考になった。英語教育のみならず、開発教育・異文化理解教育という分野にも興味を持つ良い機会となった。